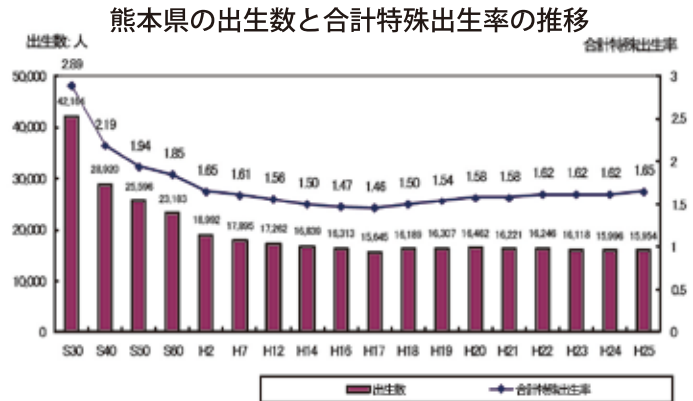


# 計画策定の背景

## 少子化の進行

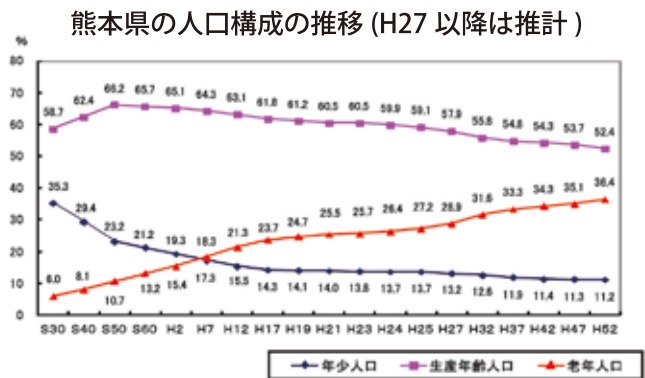
### ○合計特殊出生率が低水準で推移

本県の合計特殊出生率は平成 17 年以降上昇していますが、依然として人口を維持する水準を下回っています。出生数は、年々減少しています。



### ○年少人口の減少

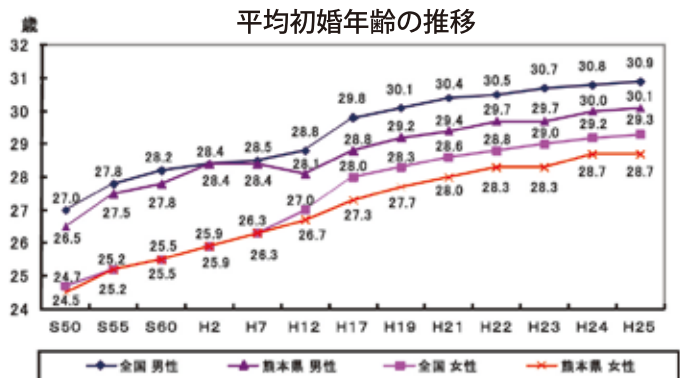
年少人口は年々減少し、老年人口は増加しています。本県の将来予測における人口割合は、平成 52 年には老年人口 36% (平成 25 年は 27%) に対し、年少人口は 11% (同 13%) となっています。



## 少子化の要因

### ○「未婚化・晩婚化の進行」

価値観の多様化、経済環境の変化などを背景に初婚年齢は男女とも年々高くなっています。



### ○家庭や地域の「子育て力の低下」

核家族世帯数の増加や3世代世帯数の減少、地域社会でのつながりの希薄化により、子育てに孤立感・負担感を感じる人が増加しています。

熊本県における世帯数の推移

	S60	H12	H22
核家族世帯数	312,390	362,400	382,235
3世代世帯数	105,559	82,017	61,000

○仕事と子育ての両立の困難さや子育て費用の負担感なども要因となっています。